

2011
賀
年

A HAPPY NEW YEAR

新年あけましておめでとうございます。

ミルクホールタイムスは、12月号を休刊させて頂きましたので、2ヶ月ぶりのご挨拶となりました。この2ヶ月ほどは、ミルクホールの改築工事と再開準備に皆で慌てふためいており、なにやら年が暮れるという実感も、年が明けるといふ実感もわからないまま、慌しくミルクホールは、新年を迎えております。そんな中でも、なんとか正月を迎えようという切なる思いは、これはもう日本に生まれ育った私達の習性といえますか、もう本能といってもいいくらいの執念を持ち合わせているようで、どうにかこうにか今年も、おせちとお餅を調達し、お飾りもして、2011年の正月を迎えることができました。年瀬の30日とか、大晦日には軽犯罪が多いことをご存知でしょうか？家族も帰る家もない人が、せめて正月くらいは屋根の下で温かく過ごしたくて、ちょっとした盗みとか、食い逃げなんかしてわざと捕まるそうです。日本中の刑務所でも、元旦にはお餅とおせちが振舞われるそうです。悪いことが出来ない人は、なんとかして腹痛なんかを起こして救急車を呼んで、病院に保護してもらえようとするようで、大晦日は忙しいのよと、病院の看護師さんから聞きました。昔から「正月の餅くらいは・・・」と、困ってる人もわけありの人も、正月を皆で祝えるようにと、色々な習慣がありました。今も私達の知らない所に、日本古来のお正月の風物詩があるようです。

今年ほうさぎ年。うさぎは見た目どおり穏やかでありながら、跳躍するという意味があるようです。卯の刻は朝の5時から7時、方位で言えば東、月で言えば2月・・・とか。ミルクホールにとっては、再出発の年です。うさぎのように穏やかに、お昼寝して亀に先を越されることがあっても、時には跳躍して頑張ろう！

皆様にとって、穏やかな良い年でありますように・・・



COLUMN

鎌倉の猫事情 第百一話

今年もまた、鎌倉の除夜の鐘の音を聞きながら、年を越し、新たな年明けを迎えました。私が鎌倉で一番好きな物が、山と海に囲まれた谷間の町に響く除夜の鐘の音です。それは美しく哀愁ある深夜のひと時です。

さて、グーニー亡き後すっかり寂しくなったミルクホールの猫事情です。ただ1人残された、スィーピーちゃん。昨年7月に、長年住み慣れた小町を離れて、仮住まいの扇ガ谷に引っ越しました。引越し前の数日間のスィーピーちゃんが、呆然と何もなくなった部屋に座り込む姿を見ていた人たちは、誰もがスィーピーのこれからの行く末を案じたものでした。扇ガ谷に移った当初奇怪な行動もありましたが、すぐに新居に慣れたようでほっとひと安心しましたが、そしてまた12月の引越しです。せっかく住み慣れかけた家をも一度離れるのはどんなにか不安だろうと心配していましたが、それがどうでしょうか、また新しい家に移ったスィーピーは、どうやら新しい家を楽しんでいる様子です。家の造りが変わっているの、ここが前に住んでいた所と同じ場所だとはわかっていないと思いますが、あっち行ったりこっちを覗いたり、興味津々という様子で部屋を歩き回っています。どうやら引越し好きみたいなのです。わからないものです。昔から「猫は家に付く」と言うのは、迷信だったんです。一番不思議に思っしげと眺めているのはお風呂です。と、いうのも、ミルクホールにはお風呂がなかったんです。昔あったお風呂は15年くらい前に厨房に改造してしまったので、私達は銭湯を利用していたのです。11年前に来たグーニーと、スィーピーはお風呂を見たことがなかったのです。「そうだよ、スィーピー、これがお風呂というものだよ。体を洗うお部屋なの」と、教えています。そういえば、グーニーは結局お風呂を知らないまま死んでしまったんだ。可哀そうなことをした・・・なんて、見当違いな感傷に浸ったりして・・・ グーニー、スィーピー、あけましておめでとう！ ——to be continued



Café

賀 2011 乙

2010年12月4日
ミルクホールは、再び船出しました。

ミルクホール再生への日々

2010年7月4日～2010年12月4日

ミルクホールは再生しました。

昨年7月4日に最後のパーティをして、翌日から解体に入りました。そして、長い長い5ヶ月という日々、暑い暑い夏とそして秋、すぐ日が落ちてしまう日差しに追われるような最後の1ヶ月を経て、ようやく、ミルクホールが再生しました。なんと長くて、楽しく、そして辛い日々だったことでしょう。今の感想はそれに尽きています。

5年ほど前、古びたミルクホールを見渡して、このまま朽ちて行くのだろうかかと悲しく思った日に、もう一度ミルクホールを甦らせることは本当に出来ないだろうか、真剣に考え始めました。そして、色々な可能性と、不可能と思われることを、調べ、考え、計画を始めました。変わり行く町並みを眺め、消えていく見慣れた風景を寂しく思い、何より、いつまでもここにミルクホールが残っていて欲しいのは、私自身だったのです。ここに、ミルクホールを残すのを生涯の仕事とさえ思いました。今こうして、再生したミルクホールの中において、その日々が不思議に思えます。なんだったのだろうか。この思いは、何かに通じたのだろうか。そう、考えてしまうほど、大変な事でした。

ミルクホールは満身創痍となってこの再生をしたのです。

一方で、特に共に工事に入った最後の1ヶ月半の間は、私が今までで一番心豊かに、楽しく感動し、生きがいを感じて過ごした日々でもありました。それは、上棟式の日には棟梁の昆さんが、ミルクホール再生ということに、賛同し、難しいことだけど、最後まで俺がやってやる！と、言って下さったところから、始まりました。私は夏の日に怪我をして長く現場に入っていない私でしたが、現場に入ると、柱や、梁を組む段階から、構造的には難しい所も、

前のままの部屋の間取りが実現できるように工夫されていることが分かりました。パーの入り口や、木造としては広すぎるホールの部屋、出窓の取り方にはそんな苦労がありました。内装工事ももっと大変でした。解体の時から大切にとってあった、壊れかけた窓、菱形の窓枠、パーカウンター、ドア、床板、巾木、柱等これらをどうすれば元に戻せるか、毎日図面と、前の写真を皆で睨んで考えました。造り方が、普通でないのですから、一部分一部分を根気良く作っていくしかありません。難しい場面に行き当たると、棟梁と真剣にどうしようかと相談しました。そして、最後には必ず、よし、やってやる。と答えてくれました。そうは言っても、大変な作業で人手も時間もかかる仕事です。棟梁は、あちこちの大工さんにも声をかけ集まってもらい、材料も次々に手配して、自分は一日も休まず現場で仕事をしていました。棟梁に引っ張られて、初めはあきらめ顔だった他の大工さん達も、次第にやれば出来るかもしれないなど、一緒になって、命懸けといった風に取り組んでいったのです。一部分が出来上がるたびに、皆私達と喜んでくれました。それは私にとって涙が出るほど嬉しい事でした。ミルクホールのここかしこに、その部分を仕上げてくれた大工さんの顔が浮かんできます。友情に満ちた熟練の大工さんたちのプライドがここに残っています。大工さんばかりでなく、細部に渡って心を尽くして下さった電気屋さん、最後の仕上げに素晴らしい漆喰を塗り上げた左官屋さん、監督さんたち、友情参加して下さった、あらいやさん、琵琶法師の馬場さん、疲れた私達を励ましてくれたお隣さん。本当にありがとうございました。私の生涯の中で、本当に一番幸せな日々でした。

そして、ミルクホールのスタッフたち、この人達が本当に大変な苦労をしたのです。7月4日に皆の本来の仕事無くし、待っていてくれた人、一緒についてきてくれた人、37年間の店を閉め、新しく店を再生させること。これは皆にとって、喜びよりも大きなストレスとなって苦しまれました。工事に加わり、塗装や慣れない作業、やってもやっても終わりが見えない仕事。最後までやりきれなくなった人もいた事にも、私はつくづくこの仕事の重さを感じました。

時を戻すように始めたこの仕事に、本当は、どういう意味があったのか。

それはまた一から始まるミルクホールが、答えを作っていくしかないでしょう。ミルクホールのスタッフたち。最後までやりきった人も、やりきれなかった人も、本当に、本当に、お疲れさまでした。

そして、ありがとう。

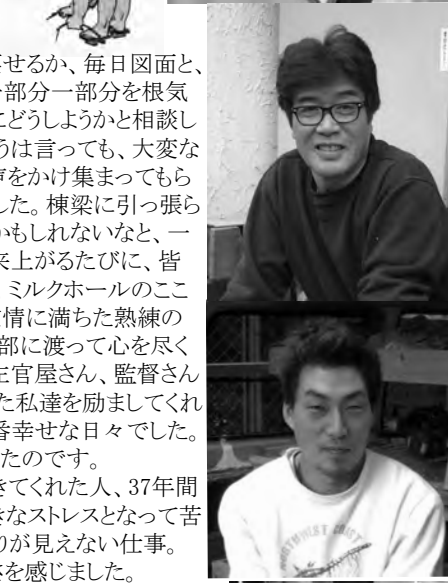
2010年 12月31日



写真一番上は、現場を取り仕切った、棟梁の昆さん。
二段目左は、熟練親方の菅野さん
二段目右は、助っ人親方の箱田さん
三段目は、裏方に徹した石原さん
ミルクホール再生の中心人物たち



休日返上してトイレを作っている棟梁



Gallery open!

ミルクホールに、新しくギャラリーが出来ました!

再生ミルクホールは、やっと船出をしたばかりです・・・

ミルクホールは昔どおりに戻りました。パールームもそのままに、ホールに昔の柱がそのまま立っていますが、前にはなかった部屋が出来ました。新しく出来た部屋は、今までと違い1階は南向きの温かい日差しの入る部屋。その部屋の吹き抜けには木の階段があり、2階の屋根裏部屋は、小さなギャラリーになっています。色々使い道を考えて作った部屋ですが、まだ始動されていません。1階の温かい部屋の前は昔風の縁側みたいになっていて、小さな庭に出られます。春になったらテラスでお茶を飲めるスペースにするつもりです。アンティークショップはなくなってしまうのかしらと心配されるお客様もいらっしやいます。骨董コーナーを復活させるには、まだまだ時間が必要ですが、広がった庭と、お店の周りのスペースを利用して、お天気の良い日に、ガラクタ・骨董の青空市を開催しようかと考えています。今は、とりあえず、南向きの部屋を禁煙室とさせて頂いています。今までミルクホールは禁煙も分煙もなく、煙草を吸わないお客様には、たびたびご不自由おかけしましたが、これからはどうぞこちらをご利用ください。今はまだ準備段階ですが、この1~2階のスペースは、ミルクホールとトアで仕切られていますので、作品展などの期間限定ギャラリーとしてお使い頂けるようになります。また、1階客席で最大12~15席程度ですが、ご予約席、また、貸切の小パーティなどでご使用して頂けるように、考えています。



詳しいお問い合わせは、ミルクホールまで

PHONE 0467-22-1179

FAX 05034882872

e-mail/ info@milkhall.co.jp

Information

ミルクホールタイムス 総集編

「鎌倉ミルクホールタイムス」

No.001 ~ No.100

ミルクホールタイムスを1976年の創刊号より、100号までまとめた総集編です。人気連載中の「鎌倉の猫事情」が第一話から第一部の終わりまで、他にガラクタ通信、ミルクホール30年の逸話など掲載しています。 ¥1500

ミルクホールタイムス定期購読募集

ミルクホールタイムスは、毎月25日に発行しております。定期購読お申し込みの方には、毎月25日郵送いたします。お申し込みは、当店か、ミルクホールホームページにて。お葉書、FAX、メールなど、お待ちしております。

年間購読料 ¥1500



WANTED

アルバイト・スタッフ募集!

ミルクホールで働く方募集しています。厨房スタッフ・ホール・パーテンドーなど、経験のある方、未経験の方、男女共に募集中です。週3日~5日程度。

ご希望の方は、ミルクホールカウンターまでまたは、お電話・メールでご連絡の上、面接の日時などお打ち合わせいたします。

ミルクホール 0467-22-1179

IF YOSHISTONE
WASA BANNER



ミルクホールタイムス創刊号 1976年

